

# とうにうん

第 11 号 2015年7月10日  
J R 東海 労 東 二 運 分 会  
責 任 者 今 城 敬 一  
編 集 教 宣 部

## 新幹線客室内に防犯カメラ設置

### 客室内に設置しても抑止力には全くなならない

柘植社長は、焼身自殺による放火事件を受けて、防犯カメラを客室内にも設置すると記者会見で発表した。柘植社長は「見せる防犯という観点から、抑止効果が期待できる」と強調。しかし、危険物を持ち込む人が客室内に防犯カメラがあろうと、いまのJR東海の防犯対策の現状では、客室内に簡単に持ち込むことが出来る。事件が起きてから確認するための防犯カメラとしてなら利用出来る。今回のような放火事件では客室内の防犯カメラでは何の抑止力にもならない対策である。

海外の鉄道や飛行場においては入場時に持ち物検査を行っている。入場時に検査しなければ客室内に防犯カメラがあっても、持ち込まれ安全を確保することはできない。焼身自殺や危険物持ち込むような人には何の意味もないのである。

### 防犯カメラが労務管理として利用される

社員の行動を監視することに利用される。基本動作の確認など労務管理や責任追求に利用されている。過去には防犯カメラを確認されて指摘、追求されて処分されている。また、客室内では、お客様も常時監視されてプライバシーはなくなる。

人命・安全のために本気でしっかりとお金をかけて安全対策が必要である。

リニア建設の前に「安全最優先」の対策をおこなうべきである！

地下のほとんどを走るリニアなら、火災事故が起きれば大惨事になる